

## 年頭所感



全医協連  
会長 小林 照尚  
(こばやし てるひさ)

新年明けましておめでとうございます。

皆様にはお健やかに新年を迎えられたことと謹んでお慶び申し上げます。

平素より当会事業に深いご理解とご支援をいただき厚く御礼を申し上げます。

全医協連は昨年めでたく40周年を迎えることが出来ました。11月3日、4日に亘り、帝国ホテルにて通常総会、ならびに創立40周年祝賀会を開催いたしましたところ、多数のご来賓ならびに関係の皆様、そして全国の医協の役員・職員の皆様のご出席を賜り、盛大かつ華やかに執り行われましたこと心より感謝申し上げます。

全医協連が創立40周年を迎えることが出来ましたのも偏に会員皆様のお力添えによるものと、深く感謝いたしております。

昨年を振り返ってみますと、経済・社会では、E.U諸国での債務危機の拡大、米国での雇用不安・財政赤字・格差拡大により日本の超円高は進み、輸出の落ち込みと日本企業の海外移転が加速しました。国力は衰退し、世界

における日本の地位は一層低下しました。

政治では、北方領土・竹島・尖閣諸島で諸外国から攻勢をかけられ、国内では「税と社会保障の一体改革」をきっかけに、8月末には野田首相に対する問責決議が可決され、衆議院の早期解散という事態になりました。

政権交代による影響はまだ不鮮明ですが、医療経営においても、また各医協の経営も益々厳しくなると思われれます。

このような環境の中にあつて、山中伸弥教授のノーベル賞受賞は快挙であり、我々に大きな勇気を与えてくれました。また昨夏のロンドンオリンピックにおける若人の活躍は、「夢をあきらめず、努力すれば夢は叶う」という信念と手本を示してくれました。

全医協連では、二つの新しい事業を準備しています。

一つ目は、日本出版販売株式会社と提携する「オンライン書店」事業です。WEBを利用するもので、医協が独自のサイトを立ち上げて運営する「医協サイト」方式と、全医協

連が立ち上げる「全医協連サイト」があります。「医協サイト」方式はすでに一部の医協でスタートしており、「全医協連サイト」も本年1月より開始いたします。ユーザの少ない医協では、「全医協連サイト」を活用しただけだと考えています。

二つ目は、共済事業の再開です。共済事業については、平成17年の保険業法改正により、やむなく廃止していましたが、平成22年の保険業法改正により、復活が可能となり、全医協連としては今年の中旬の再開を目指しております。安い保険料、シンプルな仕組み、かつ募集に従事した組合に対して大きな募集手数料を支払うことにしています。各医協の増収に少しでも役立てばと期待しているところです。

昨年は40周年を迎えましたが、今年は更なる50周年に向けて、新しい全医協連を目指し、役員、ならびに職員一同の叡智を集めて、目標へと邁進していきたいと思っております。益々のご指導、ご協力をお願いいたします。新年のご挨拶いたします。